

# キャラ・エミュ

W☆B002



GUNDAM 001 1st-Z-ZZ

CHARACTER EMULATION

# エルピー・プル&プルツー

「ガキとは言えかなりの上玉だ、こいつは良い物が撮れるぜ。」  
雑誌の写真撮影と騙されてスカウトされたプルとプルツー。  
言葉巧みに連れ込まれたマンションの一室には既に何人かの男達がプルとプルツーを待っていた。  
地下で出回る非合法的なレイプAVの新たな被害者として…  
「さあ、まずは名前を教えて貰おうか、お嬢ちゃん達。」



「今までで一番の上玉だな。しかも双子とは珍しい。」  
「ああ、このままもってかえりてえ。」



助けてえ  
シユドオー!!  
嫌ああああ...

止めるお  
お前ら  
気持ち悪いん  
だよ!

「ハイイ、こっちがフルちゃん、こっちがフルツーちゃん  
です。」  
「ほくら二人の可愛いオマンコがまるみえですよ。」



そんなの  
入るワケ...  
うそ?...

やだっ  
止めるおっ!

やっ  
もう嫌ああああ

ああーっ!

「挿入れる時はちよつと痛いからね。」

「お前の初めての相手の顔だから、よく覚えておけよ。」





ああ…  
あああああ…  
あつあつあつー!

ウ…

んっ!あつ!

あつ!あつ!  
わあ!あつ!

「そろそろ一発目いくよおっ!」  
「ああ、いっせいにいっせー!」



嫌ああ…  
あああああああつ!

「くっ、いくうううーっ!」  
「ほろ、たっぶり味わいな!」



「やっぱり子供は最高だね」  
「さて、二回戦からは上も使っていこうか」



「今度は俺のも気持ち良くしてくれよ」  
「ほら、もっと男まで啜え込めんだ」



「んっ、んっ、二人共っ、そろそろ限界っほいかなま？」  
「んっ10歳の処女で二時間はキツいだろうっ」



「歳の割には良い具合だった。次回もこの娘連でいこうか」  
「俺も気に入っちゃったよ。また可愛がってあげるからね」

## ミライ・ヤシマ

「カムランと両天秤とは癪に障るがよしとしますか・・・」  
連邦の高官であったヤシマ氏は軍内部での発言力を強める為  
に娘とある男との婚約の密約を交わしていたのだった。

一年戦争終結後、ブライト・ノアとの結婚を目前にして、  
彼女はその男のてによって拉致監禁されてしまう・・・。

「ヤシマ氏は亡くなったようだが、約束は約束・・・報酬は頂  
くとしましょう」



「目が覚めましたか？ミライさん」





は・はあつ…  
そつそんな事…っ  
父には  
聞いていません！

嫌っ！  
や…  
止めて下さい！

「お父様から聞いていませんでしたか？」  
「貴女は、お父様に売られて私の妻になったのですよ」



止めてえ…  
嫌あ…

もう…  
許…して下さる

「これはすでに決定した事ですからね…  
私を受け入れて頂きますよ。」

「さあ、貴女の可愛い声を私に聞かせて下さい。」

いつ……ヒッ  
ああっ！

いつ嫌あつ！  
止めてーっ！

「くう、そろそろ臆内に注ぎ込んであげましょう」  
「ふふ、臆内に出さないで何処に出すんですか」

だ・ダメえ……  
臆内を出すのは  
許して下さい

お・お願い  
許してえーっ！

「腔内で射精しているのがわかりますか？ふふっ」



「私が初めての相手とは光栄ですね」  
「素直にしていれば彼の身分は保障してあげましょう」



「ほら、休んでないで残った物も吸い出して下さい」



「そうそう、素直に私に従えば、彼の将来も安泰です  
からね...」



「さあ、またたつぷりと注ぎ込んであげますよ」



「妊娠する迄まだまだ時間はあります  
：それまでたつぷり楽しませよう」



## エマ・シーン

「これは驚いた、まさか裏切り者のアンタが乗っていたとはな」

ティターンズに鹵獲されたガンダムMk-II。  
そのパイロットは過去ティターンズを脱走したエマ・シーンだった。

「アンタは仲間を裏切っただけでなく、何人も同胞を殺しているんだ捕虜としての扱いは期待しない方がいい」  
こうして彼女は手枷をはめられ獄に繋がれる事となる。



「アンタの処遇だが、兵士の性欲処理担当に決まったぜ」  
「本来なら極刑のところを減刑を願いだした俺達に感謝するんだな」



くうっ  
ひっ  
卑怯者っ…

こんな事が  
許されるとても  
思っているの！

「これからずっと此処で飼われるんだ。仲良くしようぜ」  
「その威勢の良さがいつまで続くか楽しみだな」



んぐううっ！

くう…  
んっ…んん  
…んっ！

「うるさい口だが、具合は絶品だ…ううっ」  
「それじゃあ一発目だったっぶり味わいなっ！」



「一巡するまで腫内に出すんじゃねーぞ」  
「良いじゃねえか、誰のガキを孕むか掛けないか？」



「流石にコイツ一人じゃ飽きてきたなあ...」  
「まあ二ヶ月も使ってりゃあ仕方ないだろう」







「最近、反応が鈍くなってきたな」  
 「毎日14時間、半年やりつつけたからな、壊れちまったかもな」



「妊娠7ヶ月だとさ、捕まえて速攻孕ました奴は誰だ？」  
 「俺はケツ専門だからな、俺以外だな」

「明日から出産準備で病院行きだとよ。お楽しみは暫くお預けだな」  
「じゃあ今日は、このまま徹夜でやっちゃまうか？」



「ああ...良い締めりだ。ガキを生んだとは思えないな」  
「生まれたのは女だとき。10年後は親子丼で楽しめるな」



# ハマーン・カーン

ネオ・ジオン抗争末期、内乱によりネオ・ジオンは大きく疲弊していた。

「こうもうまくいくとは思わなかったよ」

ネオ・ジオンの実質的支配者ハマーン・カーンは内乱による軍部の混乱に乗じた隙をつかれ部下達に拉致されていた。

「連邦との取引場所まで、この小型シャトルでは一週間は掛かるそれまで楽しませてもらいますよ。さあ楽しみましょう。女王」



「まだ自分の立場が分かっていないみたいだな」  
「オマエは俺達を満足させる為の雌奴隷なんだよ！」



「大局も結構だが今は自分の心配でもするんだな」「こっちの方が大変じゃないか？愚か者のモノが挿入っていつてるぜ？」



「権力者だろうがアナに突っ込んでしまえば只の女と変わらんな」「うっ……ぞら！ちゃんと飲み込むんだ！」

「ほら、遠慮せず声を出してよがってみろ」  
「そろそろ気持ち良くなってきたんじゃないか？」



「はっはっ! 口の次はこっちで味わいな!」  
「.....」







「くっ、またっ、いくうっ、うっ！」  
 「濡とした表情がすっかり前れちまったな」



「ケツマンコ好きの淫乱変態女め！もっとよがってみろ！」  
 「もっと興奮まで唾え込めっ！」





「どうした、まだ満足していないぜ!」  
「これがあのハマーンかよ!とんだ雌豚っぶりだぜ!」

あおっ!

はうっ!

んあおっ



「このままの状態では連邦に引き渡すか?」  
「そいつは良い。ただ引き渡すよりポーンナスが付くかも  
しれんな」

んあ...

はあ...

んはあ...

